

三浦半島の潮間帯より採集されたクロヒメウミウシ (軟体動物門, 腹足綱, 頭楯目, ウズムシウミウシ科)

倉持 敦子・倉持 卓司

Atsuko Kuramochi and Takashi Kuramochi: A Record of *Metaruncina setoensis* (Mollusca, Gastropoda, Cephalaspidea, Runcinidae) Collected from the Intertidal Zone of the Miura Peninsula, Central Japan

はじめに

クロヒメウミウシ *Metaruncina setoensis* (Baba, 1954) は、紀伊半島瀬戸をタイプ産地として記載されたウズムシウミウシ科の1種である。本種は原記載以後、沖縄県慶良間諸島座間味島、高知県大月町西泊海域および東京都伊豆諸島八丈島からの記録があるのみで、他地域からの記録はみられない(濱谷, 2000; 小野, 2004; 中野, 2004, 2011)。筆者らは、三浦半島の相模湾沿岸域において本種を採集したので、新たな分布記録として報告する。

検討試料

Genus *Metaruncina* Baba, 1967

クロヒメウミウシ属

Metaruncina setoensis (Baba, 1954)

クロヒメウミウシ

(図2 a, b, c)

採集地 神奈川県三浦市初声町矢作海岸 潮間帯 (図1)
5個体 2012年11月21日 倉持敦子・倉持卓司採集

記載

体長3–6 mm。体は細長くナメクジ状。背面は平滑で、腹足は外套より後部に突出する。頭楯の先端中央部は浅くへこみ、不明瞭な白色帯が2本ある。触角および口触手をもたない。背面は黒色を帯びた半透明で、外套と腹足は黄褐色に縁取られる。頭楯と外套の明瞭な境界はない。肛門は外套の後部中央内側に位置する。襞状の鰓が肛門の右側に位置する(図2c)。外套後部の体内に殻をもつ(図2b)。歯舌は退化的である。ギザード(胃板)は4枚の分離したプレートから成り、プレートの歯状突起は7つある(図2a)。

比較

クロヒメウミウシは、Baba (1954) により *Runcina* 属の1種として記載されたが、*Runcina* 属は体の右側後方に2–3葉に分かれた羽状の鰓をもつものに対し、本種は襞状の鰓をもつことから、Baba (1967) は、本種をタイプ種とした *Metaruncina* 属を創設し帰属させた。

南ベトナムのNha Trang湾をタイプ産地として記載された同属の *M. nhatrangensis* Chernyshev, 2005 は、体地色は淡黄色で、背面に暗褐色の縦縞を5本もつことで本種と異なり区別される。

Baba (1954) は、紀伊半島より記録されたクロヒメウミウシには、背面と腹足に褐色細点が散在するとしたが、今回、相模湾で採集された個体からは、このような特徴は認められなかった。これ以外の外見的特徴と、内在する殻の形状がBaba (1954; 1967) によるクロヒメウミウシの特徴と一致したため、本報告では、相模湾から採集された個体を本種に同定した。

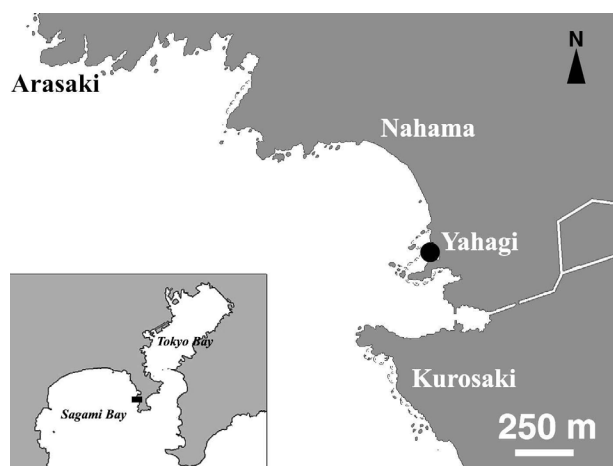


図1. 試料採集地点。(N35° 11' 7" E139° 36' 59")

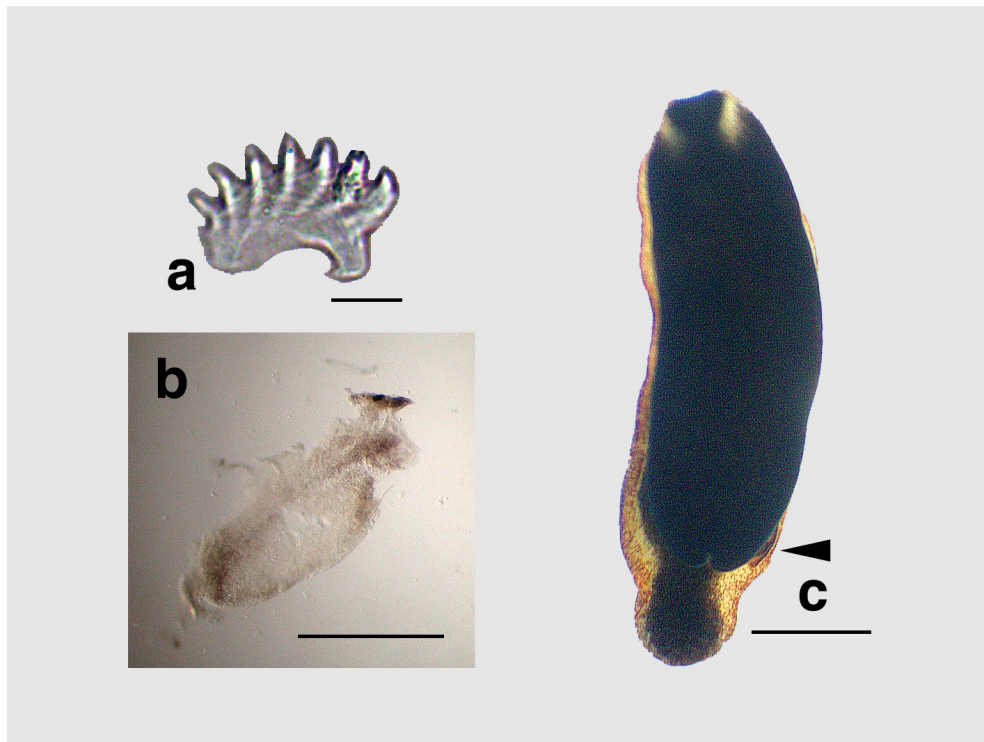


図2. クロヒメウミウシ *Metaruncina setoensis* (Baba, 1954)
採集地：神奈川県三浦市初声町矢作海岸潮間帯，a. ギザード，b. 殻，c. 全体（スケールバー：a, b, 100μm, c, 1.0 mm）

考 察

クロヒメウミウシは，Baba & Hamatani (1959) により直接発生を行うことが報告されている。相模湾で採集された個体は，紀伊半島で採集された個体とは外見上の特徴がやや異なり，背面と腹足に褐色細点を欠く。また，Baba (1954) にはギザードの歯状突起の数は記載されていないが，図示されたプレートの突起数は11で，相模湾産の個体と異なる。このような違いは，本種の発生様式が直接発生であることから，浮遊幼生期を欠き，広範囲におよぶ分布拡散が行われず，生息地により異なる遺伝形質をもった地域個体群を形成している可能性を示唆している。ギザードの突起数が地域による遺伝的差異を表しているのか，あるいは隠蔽種の可能性を示しているのか，現時点では不明であるが，今後は遺伝学的な検討が必要であると思われる。

クロヒメウミウシは原記載以後，先述の産地からの記録はあるが，これまでに相模湾からの記録はなかった。この一つの原因として，本種は，体長6 mm以下の小型種であり，ピリヒバ *Corallina pilulifera* Postels et Ruprecht などの潮間帯に密生する海藻類の間隙に生息するため観察しにくいことが影響していると考えられる。

引 用 文 献

- Baba, K., 1954, *Runcina setoensis*, a new and rare species from the coast of Kii, Middle Japan (Opisthobranchia). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 3 (3): 373-374.
- Baba, K., 1967, Supplementary notes on the anatomy of *Metaruncina setoensis* (Baba, 1954), (N.G.) (Opisthobranchia – Cephalaspidea). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 15 (3): 185-197, pls. 2-5.
- Baba, K. & I. Hamatani, 1959, The direct development in *Runcina setoensis* Baba (Opisthobranchia-Cephalaspidea). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 7(2): 281-290.
- Chernyshev, A. V., 2005, *Metaruncina nhatrangensis* sp. n. (Opisthobranchia, Cephalaspidea), a new runcinid mollusk from the South China Sea. *The Bulletin of the Russian Far East Malacological Society*, 9: 192-196.
- 濱谷 巖, 2000. ハネエラミズムシウミウシ科. 奥谷喬司編著, 日本近海産貝類図鑑. pp.759. 東海大学出版会, 東京.
- 中野理恵, 2004. 本州のウミウシ. 304pp. ラトルズ, 東京.
- 中野理恵, 2011, 高知県大月町西泊海域から記録された後鰓類. *Kuroshio Biosphere*, (7): 1-35.
- 小野篤司, 2004. 沖縄のウミウシ. 304 pp. ラトルズ, 東京.

倉持敦子・倉持卓司：横須賀市芦名 2-6-3-504